

作業給料～初の試みボーナス支給～



▲ 作業給料を受け取り、笑顔の中務幸子さん



▲ 初めての給料で喜ばれる山口和子さん

1月29日(火)に作業担当として、入居者さんに後期分の給料(7月～12月)と一年間のボーナスを支払いました。

初の試みとなったボーナスで、「いつもより金額が増えた」「また頑張る」と喜ぶ入居者さんが多くおられ、来年度も前期給料と後期給料以外に、ボーナス払いも行いたいと思えました。

入居者さんが日々、積極的に手芸や日常作業に参加して貯めてきたお金を、感謝の気持ちを込めて、これからも、このようにお返しできるように取り組みを続けたいと思えました。

(生活援助員…船越)

1月17日(木)の手芸講座で「さるぼぼ」という名前のぬいぐるみを作りました。

裏返しやすいよう、うすい布で作ったのですが、やわらかいため布がほどけて糸が外れたりして縫い直されている方がちらほらいらつしやいました。縫い終わったら、綿を詰め、前掛けをしたら個性あふれる「さるぼぼ達」が出来上がりました。

(生活援助員…北野)



▲ 「さるぼぼ」と一緒に…久保明子さん

手芸講座 さるぼぼづくり



▲ 笑顔でポーズする山口勝弘さん



▲ 金棒を持って大喜びの大下実子さん

2月3日(日)は節分! 職員が鬼役になり、入居者さんに豆をまいて鬼と厄を祓ってもらいました。鬼が登場したとたん大興奮で、次々に鬼に豆をまいて楽しまれていました。

節分だ! 鬼がやってきた!!

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551
ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/hyoufuku/>

現在、島内でもノロウイルスや食中毒が大流行しております。ふくろうの郷では、食べ物の持込のご遠慮をお願いしております。なお面会時は、手洗い、アルコール消毒、マスク着用をお願いいたします。

ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご協力よろしく願います。

かつ丼作りで誕生日のお祝い ～星・海ユニット 澁谷欣二さん～



▲澁谷さん自らかつ丼作り

1月30日(水)に76歳になられた澁谷欣二さんのお誕生日レクを行いました。

澁谷さんから「ふくろうで誕生日会をしたい」と希望があり、料理をされるのが好きなので、ユニットで昼食とケーキを作りまして。

「豚肉が好き」と言われたので、昼食のメインをかつ丼にし、ユニットのみんなで作りました。食べるときは全員が海ユニット

1月に集合して楽しく食べることをできました。

みんないつもと違う席が新鮮なようで、いつもは昼食が終わったらすぐに居室に帰ってしまう方も、ずっと席に座ってみんなでお話していました。

普段あまり笑顔を見せない澁谷さんですが、ケーキが出来上がった時にとっても嬉しそうなお顔をされていました。

ろうそくを吹き消した後、み



んなに「おめでとう」と言われたことにとっても喜ばれ、笑顔で一緒に「おめでとう」と言われていました。

(生活援助員：田中)



立てたローソクの火を吹いて

パーティーちらし寿司でお祝い～月・川ユニット誕生日レク

1月23日(水)に月・川ユニットで12月と1月生まれの入居者の誕生日会を行いました。

月・川ユニットでは、毎月誕生者の好きな食べ物聞き、メニューを考え、ユニット入居者と一緒に料理を作って誕生日会をしています。

今回は、ちらし寿司をケーキ型にして作ったパーティーちらし寿司と、天ぷら、すまし汁を作りました。出来上がったパーティーちらし寿司にローソクを立て、誕生者の方に火をふいてもらいました。

みなさん一生懸命ローソクの火をふいて「ありがとう」と笑顔がこぼれていました。

みんなで協力して出来上がった料理をおいしそうに食べられ、入居者の笑顔があふれた1日になりました。

(生活援助員：谷口愛)



▲新居文男さんは64歳に



▲お寿司を前に笑顔の相良さん

1月5日(土)に料理レクで北川様のご家族様から頂いたハムを使用して、押し寿司を作りました。ハムを細かく切るだけの簡単な作業でしたが、入居者の皆さんは頑張っておられました。

型に酢飯、先ほど切ったハム、煮たほうれん草の順に入れてその上に酢飯を入れ、扇型の重石で押し、扇形の寿司が出来上がりました。

自ら作った押し寿司をおいしく召し上がりました。

石井様、ハムを頂きありがとうございました。

(生活援助員：足立)



▲丁寧にハムを切る 辛島さん

贈り物のハムで料理レク
～花・木ユニット～

父との思い出 く大きな零戦の模型く

高田周さんは、昨年 12 月 30 日、86 歳で往生されました。

1 月 3 日の告別式で配布されました長男・高田英充さんの「お別れのことば」を了解を得てご紹介します。



高田 周様 (享年 86 歳)

でした。

母方の姉宅に預けられて

父との思い出ですが、子供の頃の思い出はほとんどありません。私は生まれて間もなく重い中

耳炎にかかり、西脇の母方の姉の家に預けられ、そこで 20 歳まで過ごしました。父とは年に数回会うだけで、一緒に遊んだ記憶が余りありません。しかし、父は大工や木工をやっていただけに手先が器用で玩具を作ってくれました。

自慢しまくりの零戦模型

11 月中旬、肺炎を患い、食べ物か喉を通らなくなり、12 月上旬から中心静脈栄養法で栄養を摂っておりましたが、次第に衰弱していききました。2 年前から神戸病院のかかりつけ医師から、老化による内臓の機能低下のため、十分に食物をとっても栄養が吸収できなくなっているとの診断を受けておりました。老衰による死去であり、苦しみのない大往生

した。

達に自慢しまくりました。本当に懐かしい思い出です。

大変だった

父とのコミュニケーション

西脇の高校を卒業してから神戸の実家に帰りました。結婚までの 10 年間、両親と同じ屋根の下で過ごす事になる訳ですが、同じ耳が聞こえない者同士の生活ですので、いろいろな問題がありました。

一番大変だったのは、コミュニケーションです。健聴者の中で過ごしてきた私、神戸聾学校で過ごした母、大阪市立聾学校で過ごした父と手話が違っていたためです。とりわけ、家族の中では父が一番大変な方でした。と申しますのは、父は読話が出来ず、発声もできず、読み書きができない状態でした。大阪市立聾学校出身でしたので、神戸の手話とは噛み合わず、一般の人々だけでなく、神戸の耳の聞こえない方々とも満足に会話が出来なくて、交遊の少ない人生になったと思います。

神戸市電の模型など

設計図なしで作製

こう書くとき寂しい人生だと思われれるでしょうが、煩わし

い人間関係に惑わされることなく、好きな物作りに精進する日を送れました。今、特養ホーム淡路ふくろうの郷に父の作品の数々があります。神戸市電の模型や昔の二枚の翼の飛行機などです。それらは設計図無しで、頭と目だけで写真や実物を見るだけで、木と紙だけで精密な模型を次々と創り上げました。その方面においては、本当に父は天才だと思いました。

実生活では、一人では生活することが出来ず、母に全てを頼っている人でした。コミュニケーションが満足にとれない為、仕事を転々とした。

しかし、ここまで長生き出来たのは、そばを離れないでいた亡き母と神戸のスタッフ、病院

の先生、最後を迎えた淡路ふくろうの郷のやさしい方々のお陰です。

甘えきり、頼りにしていた母と離れてから 15 年位になります。父はコミュニケーションが苦手なので母の遺影写真を抱かせておきます。そうすれば、父の抱いている母の遺影写真を見て、社交家の母なので冥界の誰かが「貴方の写真を抱いている人がいるよ」と母に連絡してくれるでしょう。母に迎えに来てもらった時、きつと晴れやかな顔をして禁煙に成功したという表彰状を見せて自慢することでしょう。

父に対して寄せられました皆様のご厚情に、心よりお礼を申し上げます。

(長男 高田英充)



▲手作りの飛行機 (全長 25 cm)

▼電車 (全長 1.4m) の模型



**淡路聴覚障害者
センター便り**

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

**お気怪(こ)相談を
淡路聴覚相談支援事業所**

**その人らしい生活を
共に考えて**

平成24年4月から法律が改正され、障害福祉サービスを利用している方々には個々に相談員がつき、生活プランを作ることになりました。本人やご家族の意向を家庭訪問したり、希望するサービス事業所の方、市の障害福祉担当者等と話し合いを重ね、本人のニーズに合った生活プランを作成しています。4月から、現在まで障害者9人、障害児9人の方のプランを作っています。サービスを利用し始めてからも、事業所を訪問してうまく適応できているかどうか、利用者のニーズが充足できているかどうかモニタリングを行います。

選んでできる豊かな福祉資源を
豊かな生活を送るためには二



▲身振り・手振りで援助員さんと

ーズにあった様々な資源があるかどうかが大きく影響します。そんな中で就労継続支援A型事業所「森の木ファーム」は最低賃金が保障される福祉事業所で、4月開所以来聴覚障害者4名が利用しています。

仕事はしいたけの栽培です。4名は様々な工程をこなしています。支援員さんも手話講習会に通い、手話の習得に励んでいる方もおられたり、朝礼の時には筆談してくれたり、各部署にホワイトボードを設置してくれたり、とソフト・ハード面で聴覚障害への配慮をしてくれています。

**10年ぶりに仕事に就いた
Aさんの変化**

現在50歳のAさん。若い頃は仕事をしていたが、ここ

10年間は年齢的なことやコミュニケーションの問題で仕事に就くことが難しい状況が続いていました。ハローワークの紹介を受けて10月に森の木ファームに採用が決まりました。同障害者の仲間が通所しているので、分からないことは手話で聞いたり、相談できることもあり、なおかつ最低賃金が保障されているので、やりがいを持って働いています。

10年間のブランクを物ともせず、送迎の関係で朝5時過ぎに起き通所しています。よくセンターに来ては、仕事を語るAさんは生き生きとしておられ、「大丈夫、出来る」と手話で語る顔には、仕事が見つからないと苛立った表情の以前のAさんではなく、自信さえ覗かせます。

より良い就労保障を

就労継続支援A型事業所は、最低賃金が保障されているとはいえ、就労時間が短く、十分生活できる賃金が得られるものにはなっていない。

事業の目的から言っても、仕事を通して知識と能力の向上に必要な訓練を図り一般企業への橋渡しをするもので、障害があっても一般就労でき、誇りをもてる人生の実現のために支援していきたいと考えています。

(瀬田)

●●● 手話で会話弾んで ●●●

土井貞子さん、12月ふくろうの郷入所



▲親しくなった
前田さん、竹邊さんと一緒に

5年前ご主人を亡くされ、ひとり暮らしをされていた土井貞子さん、腰を悪くされ昨年7月から入院していました。ミニ交流会へお誘いしたり、手話通訳者やろう協会が面会に訪れていました。手話での会話の楽しさに改めて気づかれ、聞こえない方への配慮のある「淡路ふくろうの郷」がいいと、昨年12月18日に入所されました。

買物や初もうでに出掛けたり、岩屋の実家にも一時帰省され、自分で作った思い出の小物を持ち帰りました。

一番の楽しみは親しくなった入所者との手話での会話。特に前田さんとは、手話での会話も弾み、「神様のおぼしめし」というほど。前田さんも、土井さんが大阪のろう学校で身に付けた手話がよく分かると言い、会話が楽しいと喜んでおられました。

早くも淡路ふくろうの郷の生活に馴染んでおられました。2月5日早朝、病院にて急性呼吸不全で急逝されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(辻)

お知らせ

3月3日(日) 10:00~15:00
社会生活教室
あわじ耳の日の集い

3月26日(火) 10:00~17:00
~こころのケア相談~
1人で悩まずに
話にきてみませんか?

3月21日(木) 19:00~21:00
センター・おのころの家
懇談会

お問い合わせはセンターまで
TEL:0799-24-3850
FAX:0799-26-1175

おのころの家



〒656-0025
洲本市本町3丁目1-10
清水マンション1F
TEL・FAX
0799-26-0956

「おのころ屋」

「いいねっ」

いらっしやいませ
こんにちは
ありがとうございます

今日も笑顔でお客様と接しています。

利用負担金を払っても、毎日来たいと言われる人は1人だけで、今まで1カ月につき5〜6回通所されていた人が1〜2回に減りました。その要因は、その人に合った仕事がなく、お給料に繋がらず、負担金が増えたためです。

毎日一生懸命仕事をしてお給料をもらいますが、お給料以上

これぞ「おのころ屋」の強み

の利用者負担金が必要な制度では、頑張ってもあほらしくなります。清掃の仕事に行っている人が、別の仕事の委託を受けることになりました。「いつもこれくらい残ればいいの」と笑顔で言われます。

仕事が楽しく、不満のないお給料になれば、どんなにいいでしょう。

(支援員・藤本)

好奇心旺盛な私

数年前までの私には予想もなかった光景がここにあります。十年前、重病を患い一時、寝たきりの生活を余儀なくされた私、もう一度、発病以前の元気な普通の生活をしたい一心で投薬治療、リハビリに専念し、ようやく数年前から車イスで生活できるようになりました。これも入院中、主治医、看護師さん達、自宅生活の中でヘルパーさんなど、多くの方々のサポートと励ましで病状が安定し、最近は入院する事もなく通院で体調管理ができ、自宅で過ごせる喜びを皆様々のお陰とひしひしと感じています。

もともと体を動かす事が好きで好奇心旺盛な私。病状が安定している今、今までサポートしていただいた方にお礼をしたいと思いついた時、パンと焼き菓子の店「おのころ屋」の存在を知りました。大好きなパンとクッキーに囲まれてお仕事ができるなんて……

子どもがお菓子の国へ行った時のように嬉しく心が弾みました。でも、やはり病気を抱えての通所になるので体調の事が気になり、不安もありましたが、前向きに考え社会参加し、少しでも社会貢献できればと思いつきチャレンジしてみました。

仲間のみんなが温かく迎え入れてくれ、仕事も親切にご指導いただき楽しく一日を過ごさせていただいています。昨年夏から通い始め最初の頃は、接客時、レジの操作を覚える事と、お釣りをしたり商品を包装したり手先が障害のある私は、「お客様に待っていただいている申し訳ない。早くしなければ……」と慌てて失敗もありましたが、今では、顔なじみのお客様と世間話をしながら応対できるまでになりました。買ってくださったお客様か

ら「美味しかったよ」と言ってくれた時、最高に嬉しく励みになります。でも、毎月一度のお給料日、健常者で普通に働いていた時は嬉しく楽しみでしたが、今は、何とも複雑で割り切れない気持ちになります。

お給料より高い

利用料負担額

障害者自立支援法では介護サービス、就労支援を受けると毎月所得に合わせて利用料が必要で私の場合、毎月9300円上限で支払う義務があります。ヘルパー訪問の場合の支払いは当然と理解できますが、仕事に通って不自由な身体で、それこそ一生懸命仕事を覚え頑張ってお給料を頂いても、お給料の金額より利用料に数多く加算項目が加わると負担の方が高額になり、手元に一円も残らず、預金を切り崩して払う現実を身を持って実感しました。これでは仕事を習得し、働ける喜びがあつても励みになりません。

働く意欲が沸く

福祉政策の確立を

賃金の改定を切に願ひ、働く

意欲が沸く福祉政策の確立を願いたいものです。

健常者と障害者ともに共生し、平等に生活ができる日が近く訪れる事を願いつつ、これからも「おのころ屋」でお客様に喜んでいただけるパンやお菓子を製造し、私の笑顔もプラスしてこれからもますます繁盛するよう接客に励みます。

「おのころ屋」の近くへお越しの際は是非お気軽にお立ち寄りください。職員、通所者みんなで心を込めて焼いた美味しいパンや焼き菓子を揃えています。私も、いつも笑顔でお待ちしています。

(おのころ屋 通所者)



スタッフ一同笑顔でお待ちしています

続・地域を語る

第50号

易学者・多田鳴鳳師の里芋

(逸話・その二)

実りの秋、取り入れが終わったころ田舎の(農村)では、地域や講中、隣近所などが一つの家に集まって会食をする風習が行われていた。

「ここ安坂でも、その風習が伝わっている。」

多田鳴鳳師も、ある夜、親しき五人組を集めて会食をすることになった。

会食の材料は芋類や野菜、農作物を夜中にこっそり、人知れず取ってきて、おかまいなしであった。

顔ぶれが揃ったところで今夜の会食の材料は何にしようか……

大根、人参、それともカブラか……

鳴鳳先生、このごろどこでも里芋がよくできてきている。今夜は里芋を迎えてきて、里芋料理、でいこうと発案し

「秋助よ。お前行って里芋を迎えてこい」と指名した。

指名された秋助

「里芋ならしめたものだ。よくできた畑がある。心では思っけても先生には言ってなかった」

「……承知の助、合点だ」とばかりに鳴鳳先生宅を出て夜の道を通り、芋畑へと向かった……

おめあての畑で沢山掘り起こしてトコトコと帰ってきた……

「立派な里芋、取ってきたぞ……」と秋助

「ウワ……これは見事じゃ……」早速、手分けをして台所を立ち合っ

た……煮しめにしたり、寿司にした

り、食卓を賑わした

「これはウマイ、おいしい、上出来じゃ」と舌つづみを打って会食、よもやま話に花を咲かせ楽しいひと時を過ごして帰っていった。

翌朝、散歩に出た鳴鳳先生、畑を見て驚いた。手しおにかけてそだてていた里芋、そっくり掘り取られていた。

「さては、昨夜の里芋、我が家のものであったか……」とあいた口はふさがらず。あきれ顔であったとさ……

※中川原村史より引用する



▲鳴鳳師たちも舌つづみを打った里芋

神戸・生田診療所から施設見学



見学を終えて歓談

1月8日、見学研修で淡路ふくろうの郷を訪問。

見学の動機は、ショート利用の患者様が、医療で改善できなかったのに淡路ふくろうの郷で元氣と笑顔を

取り戻された理由、施設建

設運動の歴史、先輩看護師の後藤さんが新たに挑戦された職場を知りたかったことです。

お話しを聞き、地域と共につくりあげた様子が感じられ、ふくろう工房で働く入居者の様子、自治会やふくろう大学などの価値ある活きた社会活動、入居者の方の表情全てが答えでした。また、人権を考えさせられる衝撃の事実をお聞きしました。

生保護法という名の下のとられた断種手術の事。決してあつてはならず、歴史は繰り返してはならない事実と思えました。今日のお二人の笑顔は最高でした。余計に胸が苦しくなりました。もしかしたら、まだ苦しんでおられる方が沢山おられるのかもと、なご辛いです。

将来のふくろう者との分け隔てない社会の実現のためにも、多くの看護の仲間にも伝えたいと思えました。

本当に貴重な見学ありがとうございました。

神戸健康共和会生田診療所 坂本佐和子

勝楽さんの自分史を 読ませていただいて

橋本万美恵

私の父母と同世代の勝楽さん夫婦の生き様は父が生前よく話をしてくれた戦争体験と重なり、ショックを受けました。

幼くして母親を亡くし、志願兵として16歳から戦争に出向いた父の苦労話がよくえつてきました。辛い時代を生き抜いてこられた勝楽さんに静かに頭を下げたいと思います。

※勝楽さんの「自分史」をご希望の方は総務までご連絡下さい。

勝楽進・佐代子夫婦が自分史を出版



現在、私も介護職員として勝楽さんや亡き父の世代を生き延びてこられた方々の人生の終章にお

今年もふくろうの郷に「だんじり」が来ます！
4月7日(日)13:00～

調理員(パート)募集中！

○お問合せ：淡路ふくろうの郷(八木)まで
TEL:0799-25-8550